

第二部 富士北麓地域の生物相

植 物

植生

磯田進¹・大久保栄治²・中込司郎²

目的

富士山北麓地域の哺乳類や鳥類、土壤動物の生態調査に伴い、その基礎となる植生状況を把握することを目的とし調査を行なった。

調査方法

調査はブラウン-ブランケ (Braun-Blanquet) の全推定法に従って行なった。

調査地点は、高山帯 (St. 1)、亜高山帯 (St. 2、St. 3)、山地帯 (St. 4、St. 5、St. 6、St. 7) の動植物の共通調査 7 地点である。

1 調査地点当たり 10m×10mないし 20m×20m のコドラートを設定し、調査したコドラートに出現するすべての植物種を記録した。

調査日および調査者

表 1 のとおりである。

表 1 調査日および調査者

2001年			
8月	1日	調査地点確認	中込
8月	8日	St. 1 St. 2 St. 3	中込・大久保・磯田
8月	17日	St. 4	中込・大久保・磯田
8月	19日	St. 7	中込・大久保・磯田
9月	20日	St. 5 St. 6	中込・大久保
2002年			
6月	21日	St. 4	中込・大久保
7月	22日	St. 1 St. 3	大久保・磯田
8月	2日	St. 2	大久保・磯田
8月	11日	St. 6 St. 7	中込・大久保・磯田 ・佐藤
8月	29日	St. 5	中込・大久保・磯田
9月	1日	St. 7	大久保・佐藤

調査結果

富士北麓における植生垂直分布は、山地帯 (700

～1,800m)、亜高山帯 (1,800～2,400m)、高山帯 (2,400m～) に分けることができる。それぞれの共通調査地点における植生の概要は以下のとおりである。

St. 1 カラマツ-ミヤマハンノキ群落 (高山帯)

調査地付近は風当たりが強く、移動の激しい火山礫で覆われた火山荒原となっている。

溶岩が露出しているところや、オンタデ *Aconogonum weyrichi* var. *alpinum*、オノエイタドリ (メイグツソウ) *Reynoutria japonica* var. *compacta*、ミヤマヤナギ *Salix reinii* などの先駆植物が進出したところは、火山礫の移動も少なく比較的安定しているため、草本植物のコロニーが形成されている。そのコロニーがより安定しているところでは、カラマツ *Larix kaempferi* やミヤマハンノキ *Alnus maximowiczii* などの稚樹が進出し、より安定した植生がみられる。調査地周辺の比較的土壌が安定している地帯は、カラマツやミヤマハンノキ、ダケカンバ *Betula ermanii*、シラビソ *Abies veitchii*、オオシラビソ *Abies mariesii* などの亜高木林が形成されている。

調査地点は北側に面した 25° の斜面で、植生調査は 2001 年 8 月 8 日、2002 年 7 月 22 日の 2 回行なった。その結果は植生調査表 (表 2) に示すとおりで、出現種数は 10 種類である。

高木層や亜高木層に該当する植物種は、認められない。低木層の植被率はおよそ 10%、樹高は 0.5～1.5m である。カラマツやミヤマハンノキが優占し、その中にダケカンバが点在している。草本層は 9 種が確認され、主にミヤマヤナギやオンタデがパッチ状に生育している。

表 2 植生調査表 (St. 1)

群落名: カラマツ-ミヤマハンノキ群落
調査地: ***
国土メッシュ: 5338-05-**
方位: N 傾斜: 25°
地形: 傾斜 土壌: 固岩層
風当: 強 日当: 陽 土湿: 乾
調査面積: 10×10 m²

¹ 昭和大学薬学部・山梨県植物研究会 ² 山梨県植物研究会

調査日：(第1回) 2001年8月8日

調査者：中込司郎・大久保栄治・磯田進

階層	優占種	高さm	植被率%	胸径cm	種数
I 高木層					
II 亜高木層					
III 低木層	カラマツ	0.5-1.5	10		3
IV 草本層	ミヤマハナギ				9
	ミネナギ	-0.5			

階層	被度・群度	種名
I 高木層		なし
II 亜高木層		なし
III 低木層	2・2	カラマツ
	1・1	ミヤマハナギ
IV 草本層	+	ダケカンバ
	1・2	ミヤマナギ (ミネナギ)
	1・1	オンタテ
	+	ダケカンバ
	+	カラマツ
	+	フジハダサオ
	+	ミヤマオコヨモギ
	+	イワツメクサ
	+	コケモモ
	+	イワスケ

調査日：(第2回) 2002年7月22日

調査者：大久保栄治・磯田進

階層	優占種	高さm	植被率%	胸径cm	種数
I 高木層					
II 亜高木層					
III 低木層	カラマツ	0.5-1.5	10		3
IV 草本層	ミヤマハナギ				9
	ミネナギ	-0.5			

階層	被度・群度	種名
I 高木層		なし
II 亜高木層		なし
III 低木層	2・2	カラマツ
	1・1	ミヤマハナギ
IV 草本層	+	ダケカンバ
	1・2	ミヤマナギ (ミネナギ)
	1・1	オンタテ
	+	ダケカンバ
	+	カラマツ
	+	フジハダサオ
	+	ミヤマオコヨモギ
	+	イワツメクサ
	+	コケモモ
	+	イワスケ

St. 2 カラマツ林 (亜高山帯)

調査地付近は樹高 10mを越える天然のカラマツで覆われ、林床にはハクサンシャクナゲ *Rhododendron brachycarpum* が優占している。土壌は溶岩で安定しており、ミヤマハナゴケが岩上に多く見られる。

調査地点は北東側に面した 18°の斜面で、植生調査は 2001年8月8日、2002年8月2日の2回行なった。その結果は植生調査表(表3)に示すとおりで、出現種数は 11種類である。高木層はカラマツ、シラビソの他ダケカンバが確認され、樹高は 11~13m、その植被率はおよそ 90%であ

る。また亜高木層には樹高は 6~7m、植被率がおよそ 10%程度のシラビソ 1種のみが生育する。低木層はハクサンシャクナゲが優占し、樹高は 0.9~2m、植被率はおよそ 50%であった。草本層には 8種の植物が確認され、コケモモ *Vaccinium vitis-idaea* が一面に生育する。またカラマツの稚樹は確認されず、シラビソがわずかながら生育していることより、カラマツ林からシラビソ林への遷移途中の林と推定される。

表3 植生調査表 (St. 2)

群落名：カラマツ林

調査地：***

国土メッシュ：5338-05-**

方位：N24° E 傾斜：18°

地形：傾斜 土壌：固岩屑

風当：強 日当：陽 土湿：適

調査面積：10×10 m²

調査日：(第1回) 2001年8月8日

調査者：中込司郎・大久保栄治・磯田進

階層	優占種	高さm	植被率%	胸径cm	種数
I 高木層	カラマツ	11-13	90	92	3
II 亜高木層	シラビソ	6-7	10		1
III 低木層	ハクサンシャクナゲ	0.9-2	50		3
IV 草本層	コケモモ	-0.9			7

階層	被度・群度	種名
I 高木層	4・4	カラマツ
	2・2	シラビソ
	1・1	ダケカンバ
II 亜高木層	1・1	シラビソ
III 低木層	4・4	ハクサンシャクナゲ
	1・1	シラビソ
IV 草本層	+	ミヤマナギ (ミネナギ)
	5・5	コケモモ
	2・2	ハクサンシャクナゲ
	1・1	ハヒリナギ
	+	イタドリ
	+	ヒメコマツ
	+	コメツガ
+	シラビソ	

調査日：(第2回) 2002年8月2日

調査者：大久保栄治・磯田進

階層	優占種	高さm	植被率%	胸径cm	種数
I 高木層	カラマツ	11-13	90	92	3
II 亜高木層	シラビソ	6-7	10		1
III 低木層	ハクサンシャクナゲ	0.9-2	50		3
IV 草本層	コケモモ	-0.9			8

階層	被度・群度	種名
I 高木層	4・4	カラマツ
	2・2	シラビソ
	1・1	ダケカンバ
II 亜高木層	1・1	シラビソ
III 低木層	4・4	ハクサンシャクナゲ
	1・1	シラビソ
IV 草本層	+	ミヤマナギ (ミネナギ)
	5・5	コケモモ

2・2	ハクシヤクナゲ
1・1	ハヒリノキ
1・1	シラビソ
+	イトリ
+	ヒメコマツ
+	コマツカ
+	ナナカマド

St. 3 シラビソ林 (亜高山帯)

調査地は樹高 20mを越えるシラビソが優占し、オオシラビソが混成する針葉樹林である。林床は暗く、草本層は出現種数、個体数ともに少ない。

調査地点は北西側に面した 20°の斜面で、植生調査は 2001 年 8 月 8 日、2002 年 7 月 22 日の 2 回行なった。その結果は植生調査表 (表 4) に示すとおりで、出現種数は 10 種類である。高木層はシラビソが優占し、オオシラビソが混生する。樹高は 20~23m、その植被率はおよそ 80%である。高木層の常緑針葉樹の被度が高いため、亜高木層以下に生育する植物種数は少なく、その植被率も低い。

表 4 植生調査表 (St. 3)

群落名：シラビソ林
 調査地：***
 国土メッシュ：5338-05-**
 方位：N40° W 傾斜：20°
 地形：傾斜 土壌：固岩屑
 風当：強 日当：陽 土湿：適
 調査面積：10×10 m²

調査日：(第 1 回) 2001 年 8 月 8 日
 調査者：中込司郎・大久保栄治・磯田進

階層	優占種	高さm	植被率%	胸径cm	種数
I 高木層	シラビソ	20-23	80		2
II 亜高木層	シラビソ	9	20		3
III 低木層			10		1
IV 草本層					8

階層	被度・群度	種名
I 高木層	5・5	シラビソ
	1・1	オオシラビソ
II 亜高木層	1・1	シラビソ
	1・1	オオシラビソ
	+	コマツカ
III 低木層	+	シラビソ
IV 草本層	+	コマツカ
	+	ミヤマワラビ
	+	ツバメオモト
	+	コバノイハクワ
	+	キンリョウウ
	+	ウキシダ

調査日：(第 2 回) 2002 年 7 月 22 日
 調査者：大久保栄治・磯田進

階層	優占種	高さm	植被率%	胸径cm	種数
I 高木層	シラビソ	20-23	80		2
II 亜高木層	シラビソ	9	20		3
III 低木層			20		1

IV 草本層

5

階層	被度・群度	種名
I 高木層	5・5	シラビソ
	1・1	オオシラビソ
II 亜高木層	1・1	シラビソ
	1・1	オオシラビソ
	+	コマツカ
III 低木層	+	シラビソ
IV 草本層	+	シラビソ
	+	ミヤマワラビ
	+	ツバメオモト
	+	キンリョウウ
	+	ウキシダ

St. 4 夏緑広葉樹林 (山地帯)

調査地はブナ *Fragus crenata* やミズナラ *Quercus mongolica* spp. *crispula* が優占する夏緑広葉樹林である。土壌は風化も進み、やや日陰で土壌湿度も比較的高く、夏緑広葉樹林が発達している。このような林相は、富士山北麓では数少ない貴重な林となっている。

調査地点は北西側に面した 30°の斜面で、植生調査は 2001 年 8 月 17 日、2002 年 6 月 21 日の 2 回行なった。その結果は植生調査表 (表 5) に示すとおりで、出現種数は 50 種類である。高木層には 7 種の夏緑広葉樹が確認され、ブナやカツラ *Cercidiphyllum japonicum* などが優占し、樹高は 25m、その植被率はおよそ 80%である。亜高木層は 4 種の夏緑広葉樹が確認され、クマシデ *Carpinus japonica* やイタヤカエデ *Acer mono* などが優占し、樹高は 10m、その植被率はおよそ 20%である。低木層は樹高 1~7m のモミ *Abies firma* やサワシバ *Carpinus cordata*、チドリノキ *Acer carpinifolium* などをはじめとした 11 種が生育する。草本層には 38 種のシダ植物や常緑広葉樹、夏緑広葉樹、草本植物が確認され、ツルシキミ *Skimmia japonica* やミヤマワラビ *Phegopteris connectilis*、テバコモミジガサ *Cacalia tebakaensis* などが主なものとなっている。この林は植物の出現種数も多く、バランスのとれた安定した森林となっている。

表 5 植生調査表 (St. 4)

群落名：(夏緑広葉樹林)
 調査地：***
 国土メッシュ：5338-15-**
 方位：N21° W 傾斜：30°
 地形：傾斜 土壌：固岩屑
 風当：中 日当：中陰 土湿：適
 調査面積：20×20 m²

調査日：(第1回) 2001年8月17日

調査者：中込司郎・大久保栄治・磯田進

階層	優占種	高さm	植被率%	胸径cm	種数
I 高木層	ブナ	-25	80		7
II 亜高木層		-10	20		4
III 低木層	フトリノキ	1-7			11
IV 草本層	ツルシキミ	-1			37

階層	被度・群度	種名
I 高木層	3・3	ブナ
	2・2	カツラ
	1・1	サワシバ
	1・1	メグスリノキ
	1・1	ミスメ
	1・1	ヤマサクラ
II 亜高木層	1・1	クマシテ
	1・1	ヤマホウシ
	1・1	イタヤカエテ
	1・1	サワシバ
III 低木層	2・2	フトリノキ
	1・1	サワシバ
	1・1	モミ
	1・1	クマシテ
	1・1	クロカンバ
	+	エンコウカエテ
	+	イタヤカエテ
	+	ハナイカダ
	+	ツノハシバミ
	+	クロモジ
IV 草本層	3・3	ツルシキミ
	3・3	ミヤマクマワラビ
	2・2	テハコモシカサ
	1・1	イワガラミ
	1・1	フタリスカ
	1・1	クロモジ
	1・1	カントウミヤマカタバミ
	1・1	ムカゴイラクサ
	1・1	キョウキシタ
	+	ヒトリシズカ
	+	マムシグサ
	+	アサノカエテ
	+	コハノトネリコ
	+	カマツカ
	+	アカネ
	+	ムラサキシキブ
	+	オオキヌタソウ
	+	チコユリ
	+	ヤマトリカブト
	+	ミヤマクニタテ
	+	マツフサ
	+	フトリノキ
	+	ミヤマイト
	+	ヤブニンジン
	+	ウリノキ
	+	トチハニンジン
	+	ミヤマタニソバ
	+	ルイヨウホタン
	+	ブナ
	+	ツタウルシ
+	ユキササ	
+	ナカハノスミレサイシン	
+	サワシバ	
+	ハンショウツル	
+	ツルツケ	
+	イワシロイノテ	
+	クシヤクシタ	

調査日：(第2回) 2002年6月21日

調査者：中込司郎・大久保栄治

階層	優占種	高さm	植被率%	胸径cm	種数
I 高木層	ブナ	-25	80		7
II 亜高木層		-10	20		4
III 低木層	フトリノキ	1-7			11
IV 草本層	ツルシキミ	-1			38

階層	被度・群度	種名
I 高木層	3・3	ブナ
	2・2	カツラ
	1・1	サワシバ
	1・1	メグスリノキ
	1・1	ミスメ
	1・1	ヤマサクラ
II 亜高木層	1・1	クマシテ
	1・1	ヤマホウシ
	1・1	イタヤカエテ
	1・1	サワシバ
III 低木層	2・2	フトリノキ
	1・1	サワシバ
	1・1	モミ
	1・1	クマシテ
	1・1	クロカンバ
	+	エンコウカエテ
	+	イタヤカエテ
	+	ハナイカダ
	+	ツノハシバミ
	+	クロモジ
IV 草本層	3・3	ツルシキミ
	3・3	ミヤマクマワラビ
	2・2	テハコモシカサ
	1・1	イワガラミ
	1・1	フタリスカ
	1・1	クロモジ
	1・1	カントウミヤマカタバミ
	1・1	ムカゴイラクサ
	1・1	キョウキシタ
	+	ヒトリシズカ
	+	マムシグサ
	+	アサノカエテ
	+	コハノトネリコ
	+	カマツカ
	+	アカネ
	+	ムラサキシキブ
	+	オオキヌタソウ
	+	チコユリ
	+	ヤマトリカブト
	+	ミヤマクニタテ
	+	マツフサ
	+	フトリノキ
	+	ミヤマイト
	+	ヤブニンジン
	+	ウリノキ
	+	トチハニンジン
	+	ミヤマタニソバ
	+	ルイヨウホタン
	+	ブナ
	+	ツタウルシ
+	ユキササ	
+	ナカハノスミレサイシン	
+	サワシバ	
+	ハンショウツル	
+	ツルツケ	
+	サワリソウ	
+	イワシロイノテ	
+	クシヤクシタ	

St. 5 ツガーヒノキ林 (山地帯)

調査地およびその周辺部は、ヒノキやツガが優占した針葉樹林となっている。溶岩の風化は進んでおらず、多くの根は直接、岩上に露出している。林床は暗く、そのため出現種数および個体数はともに少ない。

調査地点は西北側に面した斜度 5°のほぼ平坦な地形となっている。植生調査は 2001 年 9 月 20 日、2002 年 8 月 29 日の 2 回行なった。その結果は植生調査表 (表 6) に示すとおりで、出現種数は 13 種類である。高木層は樹高 20m、植被率はおよそ 90%で、ヒノキやツガが優占している。亜高木層は、常緑広葉樹のソヨゴ *Ilex pedunculosa* が優占する。低木層以下は、岩上のコケシノブ *Mecodium wrightii* を除き、植物種数およびその個体数も少ない貧弱な林床となっている。

表 6 植生調査表 (St. 5)

群落名: ツガーヒノキ林
 調査地: ***
 国土メッシュ: 5338-15-**
 方位: W10° N 傾斜: 5°
 地形: 平地 土壌: 固岩屑
 風当: 中 日当: 中陰 土湿: 適
 調査面積: 10×10 m²

調査日: (第 1 回) 2001 年 9 月 20 日
 調査者: 中込司郎・大久保栄治・磯田進

階層	優占種	高さ m	植被率%	胸径 cm	種数
I 高木層	ヒノキ	17-20	90	100-130	2
II 亜高木層	ソヨゴ	8			1
III 低木層					3
IV 草本層	コケシノブ				8

階層	被度・群度	種名
I 高木層	3・3	ヒノキ
	3・3	ツガ
II 亜高木層	2・2	ソヨゴ
III 低木層	+	ヒロハツリバナ
	+	アセビ
IV 草本層	+	ミヤマカマズミ
	1・3	コケシノブ
	+	ツルシキミ
	+	アセビ
	+	コミネカエデ
	+	カマズミ
	+	ウシカバ (クロソヨゴ)
	+	ミヤマイチシダ
+	ナンタイシダ	

調査日: (第 2 回) 2002 年 8 月 29 日
 調査者: 中込司郎・大久保栄治

階層	優占種	高さ m	植被率%	胸径 cm	種数
I 高木層	ヒノキ	17-20	90	100-130	2
II 亜高木層	ソヨゴ	8			1
III 低木層					4
IV 草本層	コケシノブ				8

階層	被度・群度	種名
I 高木層	3・3	ヒノキ
	3・3	ツガ
II 亜高木層	2・2	ソヨゴ
III 低木層	+	ヒロハツリバナ
	+	アセビ
	+	ミヤマカマズミ
	+	コミネカエデ
IV 草本層	1・3	コケシノブ
	+	ツルシキミ
	+	アセビ
	+	ヒノキ
	+	カマズミ
	+	ウシカバ (クロソヨゴ)
	+	ミヤマイチシダ
	+	ナンタイシダ

St. 6 アカマツ林 (山地帯)

調査地およびその周辺部は、アカマツソヨゴ群落で、高木層にアカマツ *Pinus densiflora*、低木層にソヨゴが優占する。溶岩流の上は腐葉物が多く堆積し、林床は明るく、やや乾燥気味である。

調査地点は平坦地で、植生調査は 2001 年 9 月 20 日、2002 年 8 月 11 日の 2 回行なった。その結果は植生調査表 (表 7) に示すとおりである。高木層は樹高 25m、植被率 80%で、アカマツが優占し、その他、ネズ (ネズミサシ) *Juniperus rigida* が見られる。亜高木層の被度、群度は小さく、ネジキ *Lyonia ovalifolia* var. *elliptica* やミズナラなどが生育する。樹高は 8m、その植被率はおよそ 20%である。低木層にはソヨゴが優占し、植被率はおよそ 90%近くである。草本層の出現個体数は多いが、被度は小さい。

表 7 植生調査表 (St. 6)

群落名: アカマツ林
 調査地: ***
 国土メッシュ: 5338-16-**
 方位: 傾斜: 0°
 地形: 平地 土壌: 固岩屑
 風当: 中 日当: 陽 土湿: 適
 調査面積: 10×10 m²

調査日: (第 1 回) 2001 年 9 月 20 日
 調査者: 中込司郎・大久保栄治・磯田進

階層	優占種	高さ m	植被率%	胸径 cm	種数
I 高木層	アカマツ	20-25	80	80-100	2
II 亜高木層	ネジキ	8	20		3
III 低木層	ソヨゴ		90		3
IV 草本層			10		21

階層	被度・群度	種名
I 高木層	5・5	アカマツ
	1・1	ネズミサシ
II 亜高木層	1・1	ネジキ

	1・1	ミスナラ
	1・1	シナキ
III 低木層	3・3	ソコ
	1・1	ナツハセ
IV 草本層	1・1	ネジキ
	+	コシアブラ
	+	コハトネリコ
	+	クロモン
	+	アズキナシ
	+	ソコ
	+	ウリハダカエテ
	+	ミヤママスミ
	+	ノリウツキ
	+	コハウチワカエテ
	+	ヤマウルシ
	+	マイヅルソウ
	+	ミヤマウスラ
	+	ツクウシ
	+	ミツバツツジ
	+	シモツケ
	+	マメギクラ
	+	ナンキンナカマト
	+	ミヤマイト
	+	ウリカエテ
	+	ヒロハツリバナ
	+	ホソバトウケシバ

調査日：(第2回) 2002年8月11日

調査者：中込司郎・大久保栄治・磯田進・佐藤孝彦

階層	優占種	高さm	植被率%	胸径cm	種数
I 高木層	アカマツ	20-25	80	80-100	2
II 亜高木層	ネジキ	8	20		3
III 低木層	ソコ		90		3
IV 草本層			10		23

階層	被度・群度	種名
I 高木層	5・5	アカマツ
	1・1	ネジミナシ
II 亜高木層	1・1	ネジキ
	1・1	ミスナラ
	1・1	シナキ
III 低木層	3・3	ソコ
	1・1	ナツハセ
	1・1	ネジキ
IV 草本層	1・1	ミツバツツジ
	+	ベニハナイヤクソウ
	+	クロモン
	+	アズキナシ
	+	ソコ
	+	ウリハダカエテ
	+	オトコヨウメ
	+	ノリウツキ
	+	コハウチワカエテ
	+	ヤマウルシ
	+	リョウブ
	+	ミヤマウスラ
	+	ムラサキシキブ
	+	スノキ
	+	ヤマツツジ
	+	マメギクラ
	+	ナンキンナカマト
	+	ツカ
	+	ハナヒリノキ
	+	ウツキ
	+	サワタツ
	+	ヒメノカリヤス
	+	ホソバトウケシバ

St. 7 草原群落 (山地帯)

調査地およびその周辺部一帯は、人為的に草原が維持されている。調査地点およびその周辺部はススキ *Miscanthus sinensis*、オオアブラススキ *Spodiopogon sibiricus*、シバズゲ *Carex nervata*、ヤマハギ *Lespedeza bicolor*、カワラマツバ *Galium verum* f. *nikkoense* などの草原植物種が主に生育する。

調査地点は北東側に面した 6°の斜面地で、植生調査は 2001年9月19日、2002年8月11日の2回行なった。その結果は植生調査表(表8)に示すとおりである。高木層や亜高木層、低木層は成立せず、草本層のみの植生である。草本層はオオアブラススキ、シバズゲ、オオバギボウシ *Hosta sieboldiana*、ススキなどが優占し、草丈は 1m内外、その植被率は 100%である。

表8 植生調査表 (St. 7)

群落名：草原群落

調査地：**

国土メッシュ：5338-06-**

方位：N20° E 傾斜：6°

地形：平地 土壌：固岩屑

風当：強 日当：陽 土湿：適

調査面積：10×10 m²

調査日：(第1回) 2001年8月19日

調査者：中込司郎・大久保栄治・磯田進

階層	優占種	高さm	植被率%	胸径cm	種数
I 高木層					
II 亜高木層					
III 低木層					
IV 草本層	オオアブラススキ	-1.0	100		37

階層	被度・群度	種名
I 高木層		なし
II 亜高木層		なし
III 低木層		なし
IV 草本層	5・5	オオアブラススキ
	4・4	シバズゲ
	4・4	オオバギボウシ
	3・3	ススキ
	3・3	ヤマハギ
	3・2	ワラビ
	1・1	カワラマツバ
	1・1	シラヤマキク
	1・1	イブキボウフウ
	1・1	カゼソウ
	1・1	オクラ
	1・1	レンゲツツジ
	+	ハバヤマホクチ
	+	ヤマラッキョウ
	+	クチコメグサ
	+	スサキ
	+	クチフウ
	+	キンムシロ
	+	カナヒキソウ
	+	ツリガネニンジン

- + キキョウ
- + サワヒヨトリ
- + ワレモコウ
- + リントウ
- + アキノキリンソウ
- + シロハナハビイチゴ
- + オトコモギ
- + ノコンキク
- + シモツケ
- + ナワシロイチゴ
- + イタドリ
- + コウゾリナ
- + カワラナデシコ
- + タカトウダイ
- + オミナエシ
- + ニガナ
- + ネジバナ

調査日：(第2回) 2002年8月11日

調査者：中込司郎・大久保栄治・磯田進・佐藤孝彦

階層	優占種	高さm	植被率%	胸径cm	種数
I 高木層					
II 亜高木層					
III 低木層					
IV 草本層	ヤマハキ	-1.0	100		38

階層	被度・群度	種名
I 高木層		なし
II 亜高木層		なし
III 低木層		なし
IV 草本層	4・3	ヤマハキ
	4・4	シバスケ
	3・3	オオアブラサスキ
	2・2	ススキ
	2・2	オオハキホウシ
	1・1	カラマツハ
	+1	オケラ
	+1	トダシバ
	+1	オトコモギ
	+1	ワラビ
	+	カラナデシコ
	+	レンゲツツジ
	+	ハバヤマホクチ
	+	ヤマラッキョウ
	+	チヂコメクサ
	+	スズサイコ
	+	チヂフウロ
	+	キシムシロ
	+	ヒメヒコタイ
	+	ツリガネニンジン
	+	キキョウ
	+	サワヒヨトリ
	+	ワレモコウ
	+	リントウ
	+	アキノキリンソウ
	+	マツムシウ
	+	カセンソウ
	+	ノコンキク
	+	ナワシロイチゴ
	+	イタドリ
	+	コウゾリナ
	+	タカトウダイ
	+	オミナエシ
	+	チダケサシ
	+	シシウト
	+	ヤマホタルフクロ
	+	ヤマノコキリソウ
	+	シラヤマキク

文献

- 朝日新聞社 (1977) 世界の植物 (週間朝日百科).
朝日新聞社 (1995) 植物の世界 (週間朝日百科).
長田武正 (1972) 日本帰化植物図鑑 平凡社.
浅野貞夫・桑原義春 編集 沼田眞 監修 (1990)
日本山野草・樹木生態図鑑 全国農村教育協会.
畔上能力 編 (1996) 山に咲く花 山と溪谷社.
石塚末吉 (1934) 史蹟名勝天然記念物調査報告
第7輯 天然記念物 (富士山の植物) の部
山梨県.
井上浩 (1982) 富士山の植物 小学館.
岩槻邦男 編 (1994) 日本の野生植物 シダ 平凡
社.
植松春雄 (1960) 富士山の植物 県立富士国立公
園博物館研究報告 No. 4.
植松春雄 (1962) 富士山の植物 県立富士国立公
園博物館研究報告 No. 9.
植松春雄 (1963) 富士山有料道路 (スバルライ
ン) 付近の植物 富士国立公園博物館報告書 No.
7.
植松春雄 (1972) 富士山北面のフロラのできあ
がり 生物教育 Vol. 13.
植松春雄 (1974) 山梨の草木 山梨日日新聞社.
植松春雄 (1978) 富士山北面のフロラ 植物と自
然 Vol. 12.
植松春雄 (1980) 富士山北面のフロラのできあ
がり 採集と飼育 Vol. 6.
植松春雄 (1981) 山梨の植物誌 井上書店.
梅村甚太郎 (1923) 富士山植物誌 丸善書店.
大井次三郎 (1965) 日本植物誌 顕花篇 至文堂.
大井次三郎 (1965) 日本植物誌 シダ篇 至文堂.
大場達之 (2000) 野の植物誌 山と溪谷社.
大場達之 (2000) 山の植物誌 山と溪谷社.
岡田正富 (1962) 青木ヶ原採集行 山梨生物 Vol.
16.
笠井昇 (1972) 富士と郡内の植物 (1) 山梨生物
Vol. 28.
笠井昇 (1972) 富士と郡内の植物 (2) 山梨生物
Vol. 31.
佐竹義輔ほか 編 (1984) 日本の野生植物 草本 I
単子葉類 平凡社.
佐竹義輔ほか 編 (1984) 日本の野生植物 草本 II
離弁花類 平凡社.
佐竹義輔ほか 編 (1984) 日本の野生植物 草本 III
合弁花類 平凡社.
佐竹義輔ほか 編 (1992) 日本の野生植物 木本 I
平凡社.
佐竹義輔ほか 編 (1993) 日本の野生植物 木本 II
平凡社.
篠原博 (1967) 富士山麓青木ヶ原原生林の植生
都留文科大学紀要 4.
篠原博 ほか (1970) 富士山の高山植物 都留文科
大学紀要 6.
篠原博 ほか (1972) 富士山の植物 都留文科大学
紀要 8.
杉本順一 (1984) 静岡県植物誌 第一法規出版.
杉野孝雄 編 (1974) 富士山自然大図鑑 静岡新
聞社.
高橋秀男・勝山輝男 監 (2000) 樹に咲く花 離弁
花 1 山と溪谷社.
高橋秀男・勝山輝男 監 (2000) 樹に咲く花 離弁
花 2 山と溪谷社.
高橋秀男・勝山輝男 監 (2001) 樹に咲く花 合弁
花・単子葉・裸子植物 山と溪谷社.
長田武正 (1972) 日本帰化植物図鑑 平凡社.
長田武正 (1989) 日本イネ科植物図譜 平凡社.
沼田眞・吉沢長人 編 (1985) 新版・日本原色雑
草図鑑 全国農村教育協会.
林弥栄 監 (1996) 野に咲く花 山と溪谷社.
林弥栄 編 (1999) 日本の野草 山と溪谷社
林弥栄 編 (1999) 日本の樹木 山と溪谷社.
富士急行株式会社 (1971) 富士山 (富士山総合
学術調査報告書).
牧野富太郎 (1963) 牧野新日本植物図鑑 北隆館.
宮脇昭 ほか (1972) 富士山 日本放送出版協会.
山田卓三 監 (1995) 野草図鑑 夏 北隆館.
山田卓三 監 (1995) 野草図鑑 秋 北隆館.
山田卓三 監 (1996) 野草図鑑 春 北隆館.
山梨県 (1925) 富士山の自然界 寶文館.
山本大二郎 (1985) 富士山麓の花 講談社.
渡辺健二 (1993) 富士山の植物たち 静岡新聞社.